



リーダーシップ教育に関する意見交換会の報告 / IGLの公募情報(2018年度) 第6回学生自主企画発表会の報告 / 欧州2大学訪問の報告

リーダーシップ教育に関する意見交換会の報告(2017.12.21)

グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 大木 直子
特任RF 小濱 聖子

2017年12月21日11-13時、本学人間文化創成科学研究科棟604室にて愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 丸山智子特任助教とグローバルリーダーシップ研究所(塚田所長、大木特任講師、小松特任講師、小濱特任RF)との意見交換会を行いました。

丸山氏は教育開発、リーダーシップ、プロジェクト・マネジメント(SDC)が専門で、アメリカで出版された大学生向けのリーダーシップ教育の教科書『リーダーシップの探求—変化をもたらす理論と実践』(スーザン・R・コミベズ、ナンス・ルーカス、ティモシー・R・マクマホン著、日向野幹也監訳、泉谷道子、丸山智子、安野舞子訳)の訳者の一人です。

意見交換会では、**愛媛大学、本学のリーダーシップ教育の体系的なプログラムや効果測定などについて**

それぞれの大学の現状や課題について話し合いました。また、本学のリーダーシップ教育関連科目等で実施している調査・研究についても発表、意見交換を行ない、今後も定期的な研究交流を続けていくことを確認しました。



意見交換会の様子

意見交換会の内容(一部)

- リーダーシップを「アイデンティティ」の一種として捉える方法が興味深かった。
- 同書中の「リーダーシップ開発の社会変革モデル(SCM)」で示された、「社会・コミュニティの価値」の中の「市民性」要素について。日本では「市民」概念が定着していないため、もし日本人学生をこの要素で分析しようとするならば、コミュニティにおける自分の立場・責任(貢献)の意識養成が必要ではないか、又は別の要素に置き換えて、日本人学生を対象にした新たなモデルを構築するほうが良いのではないか、との指摘があった。

IGLの公募情報(2018年度の予定)

● 国際学会派遣プログラム

国際的に活躍する女性研究者の育成、グローバル女性リーダー育成研究機構の重点研究領域であるリーダーシップ、男女共同参画、ジェンダー、日本学、国際協力等の研究を国際発信することを目的として、**本学のポスドク研究者、大学院博士後期課程学生の国際学会での発表に対し、学会参加費や渡航費などを支援します。**

説明会を実施しますので、**申請する予定のある方は原則ご参加ください。**

● 第7回学生自主企画プロジェクト

本ニュースレターp.2に記載あり。

● 学生海外派遣プログラム

「国際的に活躍する女性リーダーの育成」推進事業の一環として、**大学院生の主体的能動的な海外研究活動を支援します。(交通費や滞在費を支援)**

応募される方は、**応募者向け説明会に出席してください。**(やむを得ない事情で欠席する場合は、事前にグローバルリーダーシップ研究所(gakusei-chousa@cc.ocha.ac.jp)までご相談ください)

説明会の日時等、詳細は研究所HPをご覧ください。

第6回学生自主企画プロジェクト成果発表会(2017.12.13)が開催されました

グローバルリーダーシップ研究所 特任AF 金 富美

今年で6年目となる学生自主企画プロジェクトは、学生が企画する活動に10万円を上限とした支援をする取組として2012年から始まりました。学内のゴミ箱に貼ってある分別表示やStudent Commonsの部屋表示板などは、過去の採択プロジェクトで実施されたものです。

今年は何れより多い4つの企画が採択され、成果発表会が2017年12月13日に行われました。

「キャンパスマップ改善企画」は、キャリアデザインプログラムの基幹科目「ICTとコミュニケーションスキル」で企画したものを実現化したもので、2年間のプロジェクトの結果、大学への貢献度が極めて高いものになりました。このキャンパスマップは図書館のリニューアルオープンにあわせ、2018年度から大学公式HPに掲載される予定です。バリアフリー、防災、AED設置等の情報が一覧でき、白杖利用者向けに、音声としても聞くことができます。掲載されましたら是非ご覧ください。

「はんだラボ～電子工作で光る卵をつくろう～」では、はんだごてを使い、電池、LEDライト、抵抗、リードスイッチ等をつなげ、かわいらしいオブジェクトを作成するワークショップを開催しました。3年連続して採択されている椎尾研究室の有志メンバーRijowartsの企画で、普段理工系技術に触れる機会の少ない女子学生を対象に、気軽に工学技術を体験するきっかけづくりや、リケジョを増やす活動も行っています。

「遺伝子組み換え技術について考える」では、生物学科の2年生が中心となり、遺伝子組み換え作物の安全性をテーマに、外部から専門の先生をお招きし、講演会とディスカッションを開催しました。1年生から3年生がディスカッションを通じて、様々な意見を聞くことにより、今後の学術企画に向けた多くの課題を持つことができました。

「涼風！恐怖 妖怪NIGHT」は、お茶大に留学している交換留学生と本学学生の交流や、留学生へ日本文化を伝えることを目的として企画されました。「妖怪」に関する座学やお面作り、肝試しなど参加型のイベントは、今までにないユニークな企画で、企画者側と参加者が一体となって楽しんでいただいていたことが新鮮でした。



成果発表会の様子

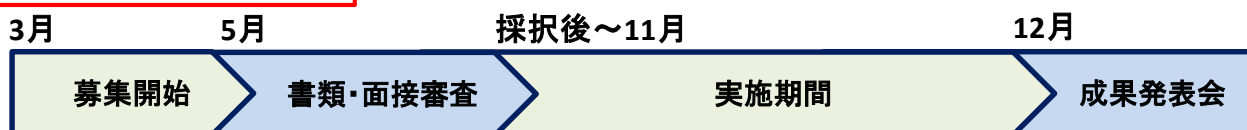
活動名	構成メンバー
キャンパスマップ改善企画	大友久代(代表)、本田真裕子、田中冨季、五十嵐由華、寺垣沙織、名取幸花、新倉和泉
はんだラボ～電子工作で光る卵をつくろう～	西村綾乃(代表)、小島珠貴、椎尾研究室 有志メンバー Rijowarts
遺伝子組み換え技術について考える	片桐沙弥(代表)、栗原綾花、池田由利子、大土井実都、高島凧紗、山岸潮音、片桐沙紀
涼風！恐怖 妖怪NIGHT	佐藤琴乃(代表)、南有紗、エルギュゼルオール・エジェ、大竹遥、薩摩悠理、嶋田有莉

第7回学生自主企画プロジェクト (2018年3月より公募開始予定)

学年や研究分野を超えた学生間のコミュニティの形成やキャンパスの活性化に寄与する活動(講演会、ワークショップ、キャンパス改善など)の企画を募集します。お茶大の全学生(休学中の学生は除く)を対象とし、採択されたグループには、経費支援を行います。学内活性化のために“有効かつ個性的な”企画をお待ちしております。

過去の採択プロジェクトや、本プロジェクトの募集等については、当研究所HP(<http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/j/menu/leadership/groupingmenu/project/index.html>)をご覧ください。

プロジェクトの流れ(予定)



本学のリーダーシップ教育研究交流を欧州へと広げていくべく、2017年11月にドイツのブッパタール大学とイタリアのコレッジオ・ヌオヴォ(パヴィア大学)を訪問した。両大学とも、筆者が実施責任者を務める「お茶の水女子大学サマープログラム」に、過去5年間毎年学生を送ってくださるなど、本学との交流に熱意を見せてくれている大学である。

ブッパタール大学はドイツ西部、デュッセルドルフ近くに位置し、33の学部、21,000~22,000名程度の学生をもつ、共学の総合大学である。パヴィア大学は、ミラノの南、パヴィアにある、学生20,000名の共学総合大学で、コレッジオ・ヌオヴォはその15あるカレッジのひとつである。コレッジオ・ヌオヴォは女子のみが所属し、110名の学部生・大学院生がいる。今回の訪問では、筆者もどちらの大学も初めての訪問ということで、サマープログラムの事後効果などのフィードバックも聞きつつ、リーダーシップ教育研究交流の第一段階として、先方大学におけるリーダーシップ教育の現状やリーダーシップに関する考え方などについてインタビューを行った。事前準備として、本学グローバルリーダーシップ研究所の教職員から質問したい事項を募り、一覧表にして英訳したうえで、先方にお送りした。また、本研究所でリサーチを続けている「リーダーシップ・コンピテンシー」アンケート調査へのご協力も、事前にお願した。

訪問を終えて感じたのは、まず、我々はい「欧米」とひとまとめに考えてしまいがちだが、「リーダーシップ」に関する考え方は、その発信地であるアメリカと、ヨーロッパのそれはかなり異なっていること、また一口にヨーロッパといっても、国による違いも大きいことである。

ブッパタール大学では、リーダーシップ教育はキャリア教育の一環として捉えられている。そもそも「リーダーシップ」という言葉には、反民主主義的な響き

あって違和感があるそうで、正面切っでのリーダーシップ教育は行われていない。学部のひとつであるSchumpeter Business Schoolで、ビジネス教育の一部として行われるマネジメント教育が、あえて言えばそれに当たるといふ。特に、グローバル企業で多文化のチームをまとめていく能力としてのリーダーシップ教育が、今後必要だとされる。また、ドイツでは各大学に男女機会平等促進のための部署を置くことが法律で義務付けられているが、そこで力を入れている女性エンパワメント教育の中に、リーダーシップ教育に該当するものがある。

一方コレッジオ・ヌオヴォでは、ドイツのような「リーダーシップ」という言葉への違和感はないようだ。「リーダーシップ教育」という呼称ではないながら該当するものとして、「ソフトスキル」教育に力を入れつつある。ソフトスキルとは、職場をはじめとした社会でうまく周囲とコミュニケーションをとり、人間関係を作る能力だ。これまで重視されてきた語学能力、PC能力などいわゆるハードスキルと同様に重要な社会能力として、昨今EUで注目されているものだという。その基礎概念は、「DOTSモデル」(<http://www.graduatecareers.org/2016/03/21/dots-model/>)なる理論だ。コレッジオ・ヌオヴォでは数年前から試験的に、課外授業としてソフトスキルのコースを開講している。男性と同様の長時間労働はできない、などの、現実的な女性の問題は直視しつつ、それを超えるような女性の利点を生かしたリーダーシップ教育を心掛けている。

全般として、ヨーロッパにはアメリカのような「リーダーシップ」を正面に押し出した教育は行われられないものの、特に女性エンパワメントに関連して類似の教育が推し進められており、本学の理念と共鳴する部分が多いことがわかった。「女性リーダー教育」を掲げての国際協働であれば、今後大いに展開できる可能性があることを感じた。



写真1: パヴィアの街に多く残る中世の塔を背景に



写真2: ブッパタール大学図書館

.....

【発行・お問合せ先】

グローバルリーダーシップ研究所
人間文化創成科学研究科棟506室

Tel/Fax: 03(5978)5520

E-mail: info-leader@cc.ocha.ac.jp

URL: <http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/>